



彌富 孝一  
やとみ こういち



概要

氏名 彌富 孝一  
 推薦団体 熊本市  
 主な活動地 熊本市

本賞

彌富孝一氏は、肥後六花の中で最古の花とされる「肥後芍薬」の栽培元として、その原種を保存継承しています。

肥後六花（肥後菊・肥後椿・肥後山茶花・肥後花菖蒲・肥後朝顔・肥後芍薬）は、肥後細川藩主の六代目重賢公が武芸のたしなみとして、園芸を推奨したことが始まりとされ、現代まで受け継がれています。

彌富家は、大正三年から肥後芍薬の栽培を始め、昭和三十五年に熊本博物館によって「肥後芍薬」と鑑定され、氏はそこから本格的に栽培に取り組み始め、毎年芍薬の花が見られるところまで復活させました。

自宅には芍薬農園があり、御子息らと共に維持に努め、現在では江戸時代から続く肥後芍薬の確実な品種を継承する数少ない家となっています。また、開花の季節には水前寺成趣園などに展示し、種の周知に努めています。

このように、氏は、古くからの品種を守り伝え、「肥後芍薬」の栽培を継続し次世代へ継承した活動は、本県の文化振興に大きく貢献されています。

## これまでの主な活動歴

大正三年

彌富家で肥後芍薬の栽培開始

昭和三十五年

熊本博物館により「肥後芍薬」と

鑑定され、芍薬の復活に向け取組

開始、彌富孝一氏栽培開始

自宅の芍薬農園一般開放

昭和四十年

熊本博物館の肥後しゃくやく展に

出品

（～令和四年）

昭和四十七年

熊本城肥後六花園に肥後芍薬の株

分け

### 【年間活動内容】

・ 5月

水前寺成趣園展示、熊本博物館肥

後しゃくやく展出品

・ 通年

草刈り、追肥等